



明るい夜と涙

rocksan

星が見たいと言って
突然君は街へ飛び出していった
でもこの街じゃ光が強すぎて
星なんてひとつも見えやしない
この明るい真夜中に
きっと誰も星なんて求めちゃいないのさ
そんな事は随分前からわかってるはずなのに

僕は君を追いかけて
何時ものように屋上で君を見つけた
君が一人で行ける一番高い場所
君は手を空に伸ばし
星座を描くように漆黒のキャンパスをなぞる
必死になって何度も何度もなぞる
けれどもそこに星座は現れはしない
それでも君はなぞり続ける
いつか星が見えると信じて

君は表情を変えずに
夜空をなぞり続けるけど
瞳の輝きは増していく
やがてこぼれる大粒の涙
涙を流しながらそれでも君は
夜空から目を離さずに手を振り続ける
唯一つ浮かぶ三日月が君を笑ってるようだ

やがて夜が明けて
君は疲れて倒れ込む
僕は君を抱えて部屋に戻る
そしてようやく君は眠るのだ
それが夢に帰る為の儀式のように
僕はただ夢の中だけでも星の瞬きを願うだけ
この街を離れたい君と離れられない僕
君の為に僕はここにいるのに
この街が君を苦しめる
君と僕は同じ星の下で生きているのに
どうして同じものが見えないのだろう

見えないはずの星は今も輝いてる